

イノシシの管理の基本と 調査設計・計画策定の考え方



株式会社野生動物保護管理事務所
平山 寛之

1

本講義の内容

- イノシシの生態と全国での生息等の概況
- イノシシによる被害と基本的な対策
- 調査設計とモニタリング手法
- 計画策定の考え方



2

2

イノシシの特徴

- ◆ 分類：ウシ目（偶蹄目）イノシシ科 イノシシ
- ◆ 学名：*Sus scrofa*
- ◆ 分布：日本には2亜種（ニホンイノシシ，リュウキュウイノシシ）が分布
 - ニホンイノシシ：本州，四国，淡路島，九州に生息
 - リュウキュウイノシシ：奄美大島，沖縄島，石垣島，西表島に分布
- ◆ 形態：亜種によって体重が大きく異なる
 - ニホンイノシシ・・・100kg程度まで
 - リュウキュウイノシシ・・・40kg程度まで
- ◆ 生態：
 - ・ 雑食性だが，植物の割合が高い。
 - ・ 基本的には昼行性だが，人間の影響で夜行性を示す。
 - ・ 積雪には弱く，季節的に大きく移動する個体もある
 - ・ 1才で性成熟し，2才で出産する。
 - ・ ニホンイノシシの交尾期は12月下旬～3月上旬，出産期は4月下旬～7月上旬
 - ・ 産子数は通常3～5頭（2～8頭と幅はある）。
 - ・ 栄養状態により出産率，産子数が変化する。
 - ・ 1才までに50%が死亡するため，毎年2頭ほどの子が残る
 - ・ 一夫多妻といえるが，ハレムは作らない。
 - ・ 最長寿命は飼育下では20年程度，野生化では5～10年程度。



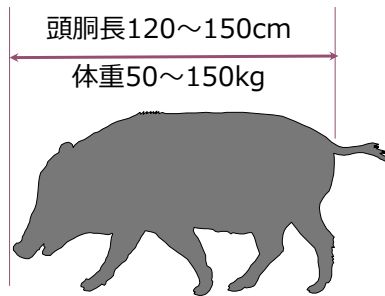
3

3

基本的な生態

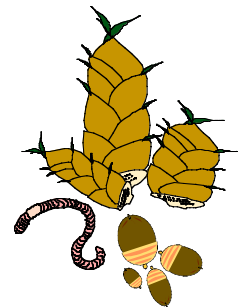


- ・ オスは単独行動
- ・ 母親と子どもは群れをつくる



毛の長さは季節によって変わる

食性は雑食性で地上・地中の植物の根、小動物等を食べる



反芻はしない
(胃は1個)

4

4

イノシシの全国分布



36年間で1.8倍に拡大

- 分布拡大は東北の一部を除き全国的
- 特に多雪地域（東北、北関東、北陸）で顕著

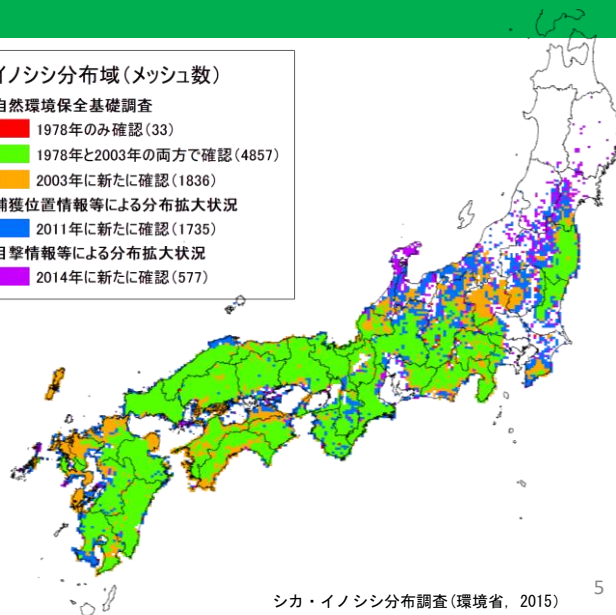
イノシシ分布域(メッシュ数)

自然環境保全基礎調査

- 1978年のみ確認(33)
- 1978年と2003年の両方で確認(4857)
- 2003年に新たに確認(1836)

捕獲位置情報等による分布拡大状況

- 2011年に新たに確認(1735)
- 目撃情報等による分布拡大状況
- 2014年に新たに確認(577)

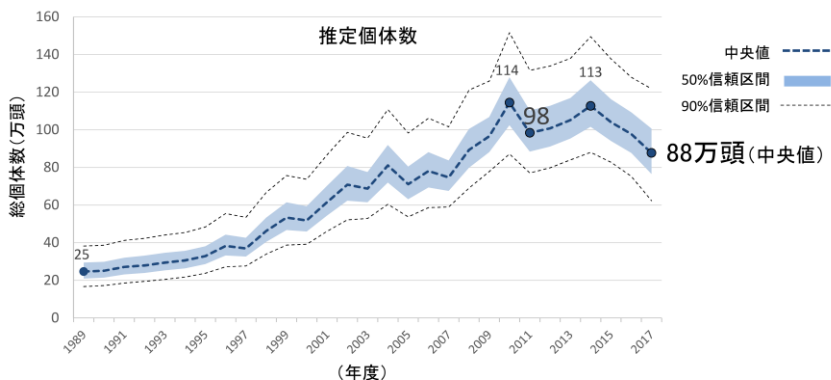


シカ・イノシシ分布調査(環境省, 2015)

5

5

イノシシの生息個体数



※ 2017(平成29)年度の自然増加率の推定値は中央値1.47(90%信頼区間:1.24-1.71)
 ※ 50%信頼区間:76-101万頭、90%信頼区間:62万頭-122万頭

階層ベイズモデルによる生息個体数の推定結果 (環境省, 2019)

変動しながら、近年はやや減少傾向

6

6

本講義の内容

- イノシシの生態と全国での生息等の概況
- イノシシによる被害と基本的な対策
- 調査設計とモニタリング手法
- 計画策定の考え方



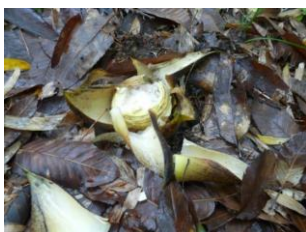
7

7

イノシシによる農業被害

雑食性なのでなんでも食べる = なんでも被害を出す

タケノコの食痕



イネの食痕



田んぼも1晩で壊滅…

8

8

イノシシによる農業被害

特に厄介なのが掘り返し

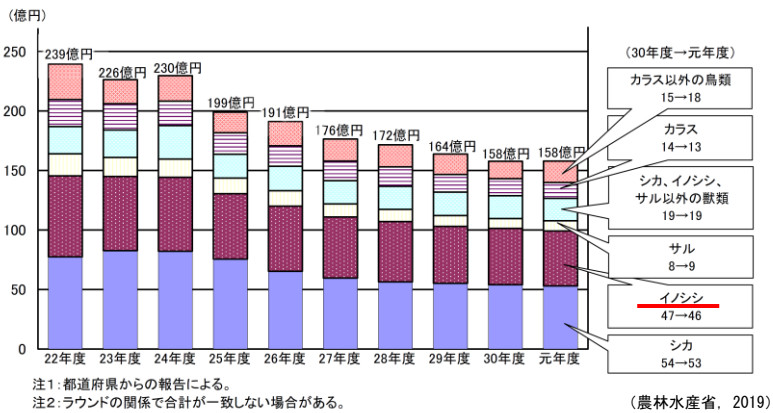


農道の法面



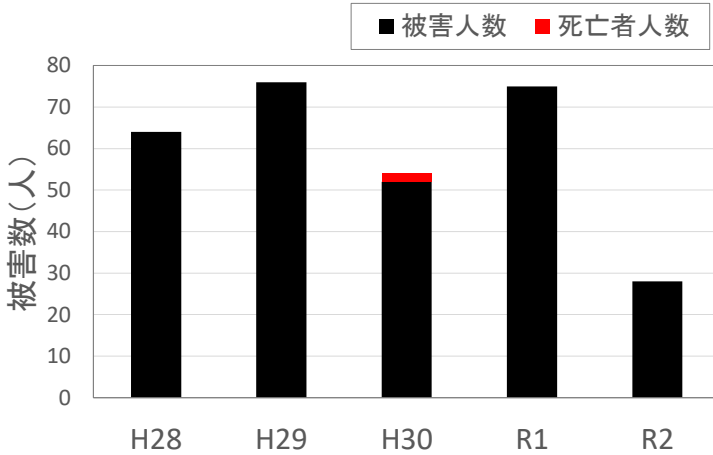
農作物被害

野生鳥獣による農作物被害金額の推移



微減傾向にあるが、令和元年度も全体の3割程度を占める

人身被害



変動があり、
R2は被害件数はやや少ない

件数よりも死亡事故のような重大事故が起こりえるリスクがあることが重要

イノシシの被害件数 (環境省, 2020) をもとに作成

主なイノシシ対策の手法

種類	方法	目的	備考
防護	ワイヤーメッシュ柵	宅地・農地への侵入防止	適正な管理が必要 ワイヤーメッシュ+電気柵、 電気柵+トタン柵、etc.
	電気柵		
	複合柵		
環境整備	藪の刈り払い	イノシシにとっての好適環境の低減	
捕獲	わなによる捕獲	加害個体の排除	免許や技術の習熟が必要

力技だけで防ぐのは難しい…

➤ 力が強く、敏捷で、頭が良い

50～70kgのものを動かせる



100～120cmを飛び越えられる



20cm程度の隙間をくぐれる

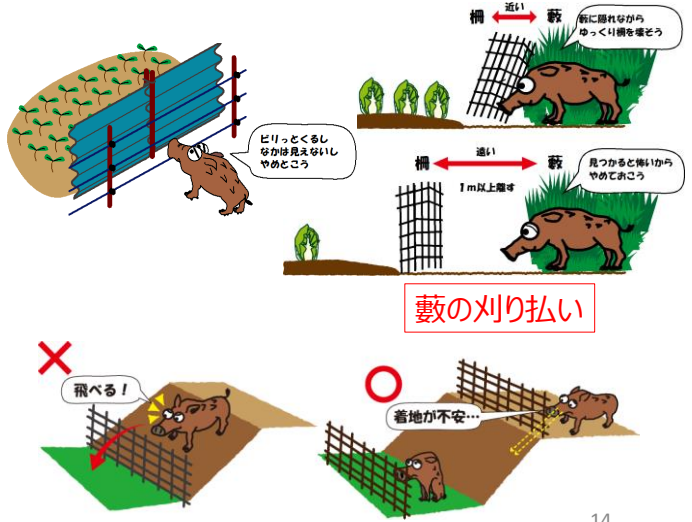
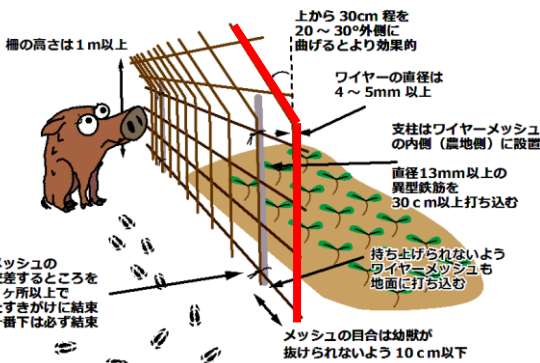


出典: [被害12市町村イノシシ対策技術マニュアル-復興庁, 2018]



物理的×心理的効果を狙う必要…!

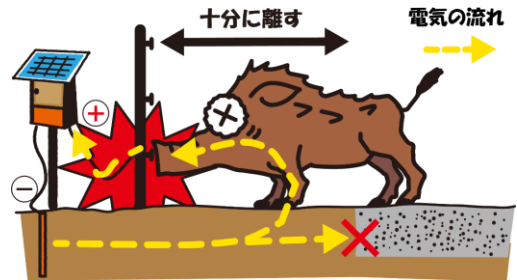
➤ 危ない、コワイ、不安…



出典: [被害12市町村イノシシ対策技術マニュアル-復興庁, 2018]

最たる例が電気柵！

- 毎回、感電しているわけではない！
- イノシシの鼻の前面は、毛が生えておらず、神経が集中
- 何をするのも鼻から
- 一回感電した**記憶**⇒**恐怖**…！



- ・ イノシシは鼻の前面しか感電しない
- ・ 鼻の高さに電線を
- ・ 張っている時は通電を（推奨4,000v）
- ・ 昼も夜も通電する

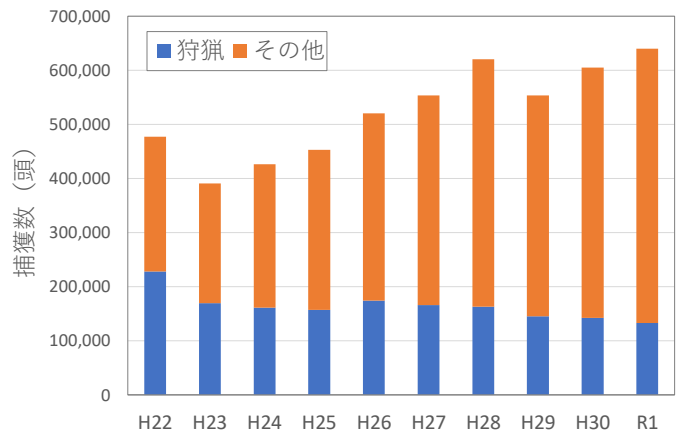
出典：[被害12市町村イノシシ対策技術マニュアル-復興庁、2018]

15

15

イノシシの捕獲数

- ・ 過去10年間で捕獲数は増加傾向
- ・ 近年は変動しながら横ばい
もしくは微増傾向
- ✓ 近年は狩猟以外の捕獲数が
全体の7~8割



環境省ウェブサイトの公開情報をもとに作成
※R1は速報値

16

16

本講義の内容

- イノシシの生態と全国での生息等の概況
- イノシシによる被害と基本的な対策
- 調査設計とモニタリング手法
- 計画策定の考え方



17

17

モニタリングの種類と考え方

- 生息状況 → **密度**モニタリング
- 被害状況 → **被害**モニタリング の2つに分けて考える

どちらにも共通するのは、まずは**広く浅く状況を把握するのが基本**
その結果をもとに必要に応じて詳細なモニタリングを行う

18

18

広く浅くモニタリングするために

- 広い範囲 を
 - 低コスト で
- カバーする必要がある

◎広域での濃淡

◎数年単位での相対的な増減

▼

✓アンケート方式

✓記録項目を限定した定型的で労力の少ない野外調査

アンケートで密度をモニタリング：出猟カレンダー

兵庫県 銃猟 平成24年度 シカ・イノシシ出猟カレンダー (表)

記入上の注意
 ● 記入は、1日以上の猟やシヤープペンシル(0.5mm以上)、ボールペンで行ってください。
 ● 廃止には、消しゴムを使用してください。

氏名 郵便番号 年齢 歳
 性別 年
 狩猟者登録番号 住所

主な対象 シカ・イノシシ両方 シカのみ イノシシのみ シカ・イノシシは対象外
 (該当するところに、*印を入れてください。例:)

※シカ・イノシシを対象とした出猟の回数、ご記入ください。
 ※銃種や種類がなかつた場合は、出撃日のメッシュ番号、出撃場所、同行者数をご記入ください。
 ※銃種数は、自分自身が捕獲した回数だけをご記入ください。(同行者と重複しないように。)
 ※目撃回数、自分自身が目撃した回数全てをご記入ください。(同行者と重複しても構いません。)
 ※自分自身が捕獲し、捕獲数に加えたものは、目撃数には含めなくてください。

出撃日	メッシュ番号	出撃場所	同行者数	シカ	イノシシ
1/2					
1/3					
1/4					
1/5					
1/6					
1/7					
1/8					
1/9					
1/10					
1/11					
1/12					
1/13					
1/14					
1/15					
1/16					
1/17					
1/18					
1/19					
1/20					
1/21					
1/22					
1/23					
1/24					
1/25					
1/26					
1/27					
1/28					

兵庫県 わな猟 平成24年度 シカ・イノシシ出猟カレンダー (表)

記入上の注意
 ● 記入は、1日以上の猟やシヤープペンシル(0.5mm以上)、ボールペンで行ってください。
 ● 廃止には、消しゴムを使用してください。

氏名 郵便番号 年齢 歳
 性別 年
 狩猟者登録番号 住所

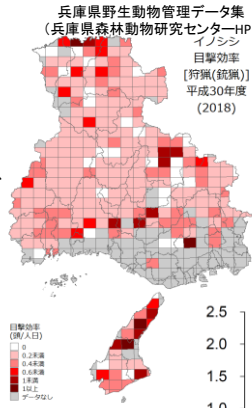
主な対象 シカ・イノシシ両方 シカのみ イノシシのみ シカ・イノシシは対象外
 (該当するところに、*印を入れてください。例:)

※シカ・イノシシを対象とした出猟の回数、ご記入ください。
 ※銃種や種類がなかつた場合は、出撃日のメッシュ番号、出撃場所、同行者数をご記入ください。
 ※銃種数は、自分自身が捕獲した回数だけをご記入ください。(同行者と重複しないように。)
 ※目撃回数、自分自身が目撃した回数全てをご記入ください。(同行者と重複しても構いません。)
 ※自分自身が捕獲し、捕獲数に加えたものは、目撃数には含めなくてください。

設置記録 ※シカ・イノシシ目的であれば、捕獲実績のない日についても記録してください。

メッシュ番号	設置場所(郡市・地区)	開始日	終了日	回数	目撃回数
1/2		1/2	1/5		
1/3		1/2	1/5		
1/4		1/2	1/5		
1/5		1/2	1/5		
1/6		1/2	1/5		
1/7		1/2	1/5		
1/8		1/2	1/5		
1/9		1/2	1/5		
1/10		1/2	1/5		
1/11		1/2	1/5		
1/12		1/2	1/5		
1/13		1/2	1/5		
1/14		1/2	1/5		
1/15		1/2	1/5		
1/16		1/2	1/5		
1/17		1/2	1/5		
1/18		1/2	1/5		
1/19		1/2	1/5		
1/20		1/2	1/5		
1/21		1/2	1/5		
1/22		1/2	1/5		
1/23		1/2	1/5		
1/24		1/2	1/5		
1/25		1/2	1/5		
1/26		1/2	1/5		
1/27		1/2	1/5		
1/28		1/2	1/5		

狩猟登録者へ配布し、
回収・分析



地図化し、地域的な
生息状況の違いを把握

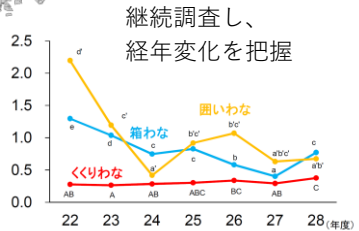


図3 わな種ごとの捕獲効率の経年変化 (大阪府 2018)

アンケートで密度をモニタリング：出猟カレンダー

令和元(2019)年度
栃木県イノシシ管理計画
モニタリング結果報告書より

狩猟期間中は多くの都道府県で採用

- 捕獲者の協力が得られれば安価に全域での情報が収集可能
 - 不確かな情報も含まれるので、たくさんの回答を得ることが重要（回収率を上げる取組が継続的に必要）
- ✓ 狩猟以外の事業捕獲でも同様の情報収集を行うことが必要
→ 市町村の有害捕獲、都道府県の捕獲事業等
- シカも併せて把握可能

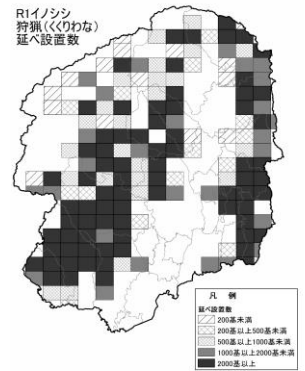


図4 捕獲努力量の分布（令和元(2019)年度）

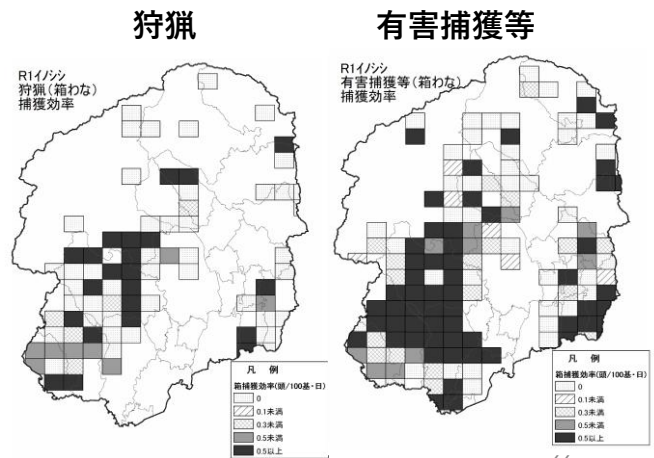
アンケートで密度をモニタリング：出猟カレンダー

令和元(2019)年度
栃木県イノシシ管理計画
モニタリング結果報告書より

栃木県では有害捕獲でも出猟カレンダーを実施



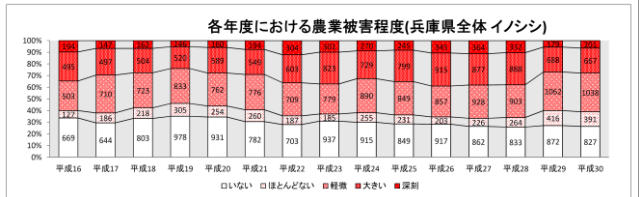
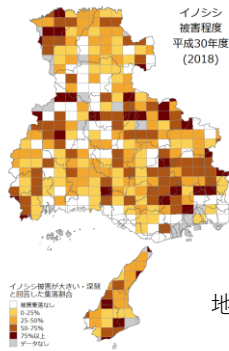
- ✓ 狩猟より広範囲かつ長期間の状況が把握されている
- ✓ 地域的な密度の濃淡が同じ傾向を示しているなら信頼性が高い



アンケートで被害をモニタリング：農業集落アンケート

対象動物	農業被害	出没	実施した対策とその効果 (防鼠網については作業では設置したものを含みます)		その他特記事項
シカ <input type="checkbox"/> いる ↳ (<input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 春～秋だけ <input type="checkbox"/> 不明) <input type="checkbox"/> いない (→右は記入不要)	農業被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 深刻	農地・集落の周辺で <input type="checkbox"/> あまり見ない <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> よく見る	捕獲 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 罠で <input type="checkbox"/> 罠取不明) やぶ刈 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 →効果 (<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 不明) その他 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 →効果 (<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 不明)	防鼠網 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> ネット <input type="checkbox"/> 電気柵 <input type="checkbox"/> 金網柵 <input type="checkbox"/> トタン柵) →効果 (<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 不明)	果樹の剥皮被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 深刻
イノシシ <input type="checkbox"/> いる <input type="checkbox"/> いない (→右は記入不要)	農業被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 深刻	農地・集落の周辺で <input type="checkbox"/> あまり見ない <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> よく見る	捕獲 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 罠で <input type="checkbox"/> 罠取不明) やぶ刈 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 →効果 (<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 不明) その他 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 →効果 (<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 不明)	防鼠網 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> ネット <input type="checkbox"/> 電気柵 <input type="checkbox"/> 金網柵 <input type="checkbox"/> トタン柵) →効果 (<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 不明)	離やま手の被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 深刻

農業集落の代表者へ配布し、
回収・分析



地域的な生息状況の違いや経年変化を把握

兵庫県野生動物管理データ集
(兵庫県森林動物研究センターHP)

23

アンケートで被害をモニタリング：農業集落アンケート

- ・イノシシ以外の他鳥獣の情報も一括で収集できる
- ・被害だけでなく、**出没状況・対策の実施状況**も収集
↳住宅地では人身被害リスクの評価

- ✓ 現地をよく知る住民の回答は、一定の信頼性が担保
- ✓ 定量的な評価は難しいが、被害感情にあたる内容の聞き取りであり、地域での問題解消には有用
- ✓ 経年変化を把握する上では**毎年同じ時期に継続して実施することが重要**

対象動物	農業被害	出没
シカ <input type="checkbox"/> いる ↳ (<input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 春～秋だけ <input type="checkbox"/> 不明) <input type="checkbox"/> いない (→右は記入不要)	農業被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 深刻	農地・集落の周辺で <input type="checkbox"/> あまり見ない <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> よく見る
イノシシ <input type="checkbox"/> いる <input type="checkbox"/> いない (→右は記入不要)	農業被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 深刻	農地・集落の周辺で <input type="checkbox"/> あまり見ない <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> よく見る
ニホンザル <input type="checkbox"/> いる ↳ 子供を連れだ群れが いる ↳ 1～数頭のニホンザルだけが いる <input type="checkbox"/> いない (→右は記入不要)	農業被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 深刻	農地・集落の周辺で <input type="checkbox"/> あまり見ない <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> よく見る
ツキノワグマ <input type="checkbox"/> いる <input type="checkbox"/> いない (→右は記入不要)	農業被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 深刻	農地・集落の周辺で <input type="checkbox"/> あまり見ない <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> よく見る

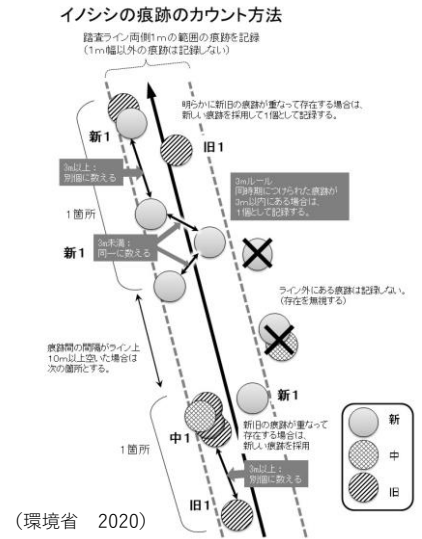
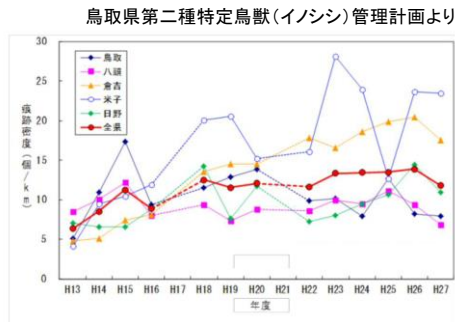
24

24

野外調査で密度をモニタリング：痕跡密度調査

シカの調査として普及している糞塊密度調査に似たイメージ

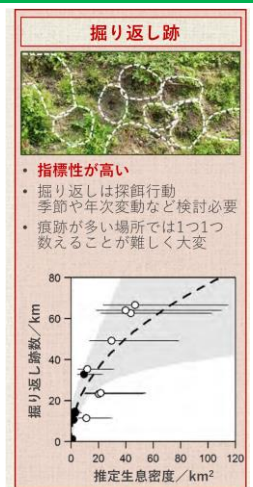
- イノシシの密度調査手法は開発段階
- 踏査で複数痕跡種を記録する方法がいくつかの地域で実施
- 鳥取県ではH13から継続的に調査が実施



25

野外調査で密度をモニタリング：痕跡密度調査

- 掘り返し等の痕跡が密度指標として有用であることが示唆
(兵庫県立大 2019; 岐阜県 2020)
- ✓ 1メッシュ (5km程度のルート) を1人日で踏査可能
- ✓ 経験的に分布メッシュの20~25%を調査対象として調査計画を立てることを推奨
- ✓ 経年変化を把握する上では毎年同じ時期、同じルートで継続することが重要
- ✓ 経年変化を把握するという点では調査員の技量も重要



異質環境下におけるシカ・イノシシの個体数推定モデルと持続可能な管理システムの開発成果報告集 (兵庫県立大 2019)

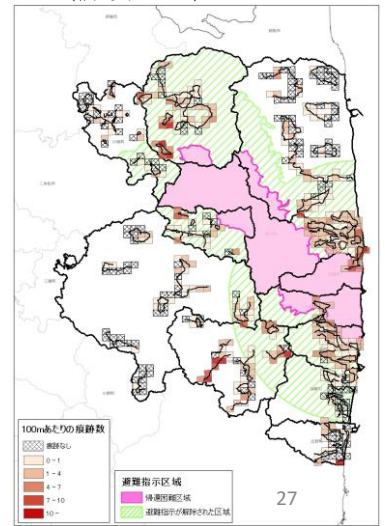
26

野外調査で密度をモニタリング：痕跡密度調査

- 痕跡密度調査を住宅地周辺で実施すれば出没頻度（=人身事故の潜在的なリスク）を評価できる
- ✓ 目的にあった設計にするため、山際の道路沿いを調査ルートにするなど、工夫が必要



市街地周辺での痕跡調査結果
(福島県 2019)



27

野外調査で密度をモニタリング：カメラトラップ

- 広域から狭域の調査まで設計次第で対応できる
- イノシシの行動（そこで何をしているか）まで明らかになる
- ただし、設置と回収に加え、画像判別が必要であり、設置台日が多いほどコストがかかるのが難点

✓ 狭域での詳細調査向け

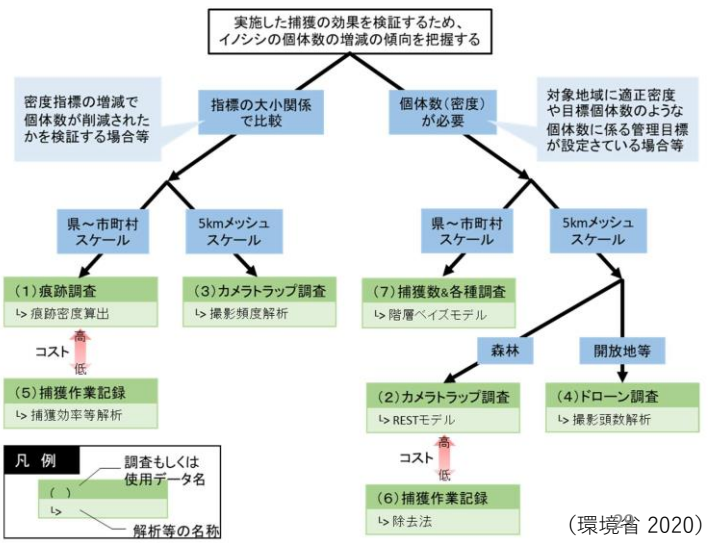
✓ 生息密度の推定に直接使用する調査手法もあるが、さらに分析等にコストがかかる



28

密度モニタリングの手法の整理

- その他の調査手法の選択は
左のフローチャートが参考になる



- ✓ 注意点として調査と解析の手法は分けて考える必要がある

- ✓ 解析については一部後述

本講義の内容

- イノシシの生態と全国での生息等の概況
- イノシシによる被害と基本的な対策
- 調査設計とモニタリング手法
- 計画策定の考え方



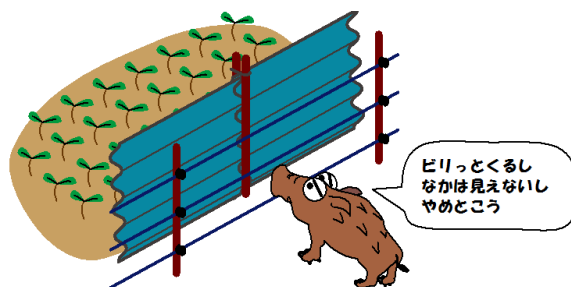
近年のイノシシ問題と必要な措置

- ひと昔前：イノシシといえば「農業被害」

→農地をしっかりと守ることが重要

個体数管理の重要性は低い

被害防除 > 密度調査や目標設定



31

31

近年のイノシシ問題と必要な措置

- 最近の状況：イノシシは

「農業被害」に加えて「人身被害」も各地で深刻化

→農地をしっかりと守ることは重要

人の生活圏への出没も抑える必要がある



被害防除だけでなく、広域での密度低減が必要

→シカと同じような状況把握と目標設定が重要



32

32

都道府県と市町村の役割分担

- 都道府県：広域での管理の主体
 - ▶ 第二種特定鳥獣管理計画の策定とそれに基づくモニタリング
 - ✓ 計画で取得されたデータに基づく目標設定
 - 階層ベイズモデルによる個体数推定と捕獲目標の設定
 - ▶ 指定管理鳥獣捕獲等事業による個体数管理の推進
 - ▶ 出没対応等については対応方針の整備と市町村の支援
- 市町村：地域での対策の主体
 - ▶ 各地域での目標と整合性のとれる実施計画を作成する
 - ▶ 出没対応等は指針を受け、有事の際の手順（対応マニュアル）を作成する

33

33

都道府県の計画策定のポイント

- 広域でのモニタリング結果にもとづいて目標設定を行う
- 農業被害や市街地出没の減少のため、広域での生息密度低減が必要
- 密度の指標としては先のとおり、出猟カレンダーや痕跡密度調査が有効
 - これらを活用し、階層ベイズモデルによる個体数推定と捕獲目標設定
- ✓ **イノシシは個体数の年変動が大きな種であり、捕獲数の振れ幅も大きい**
- ✓ **捕獲目標に届かない年があっても、翌年の目標を下方修正せず、高い捕獲圧をかけ続けることが重要**

34

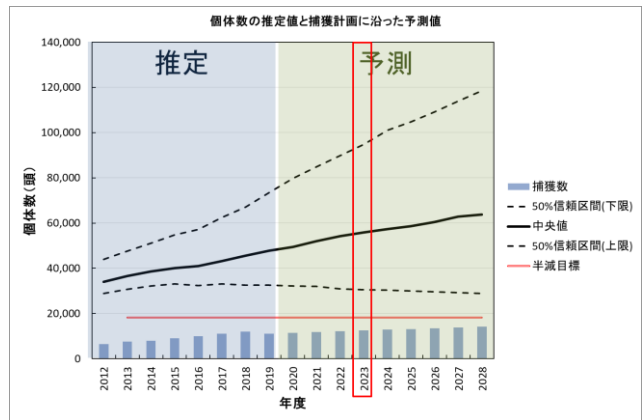
34

階層ベイズモデルのイメージ

- 捕獲数と密度モニタリングのデータを使用し、個体数動向を推定

- 推定結果を用いて今後の捕獲計画に沿って個体数動向を予測

現状の捕獲を継続すると個体数は増加と予測



35

35

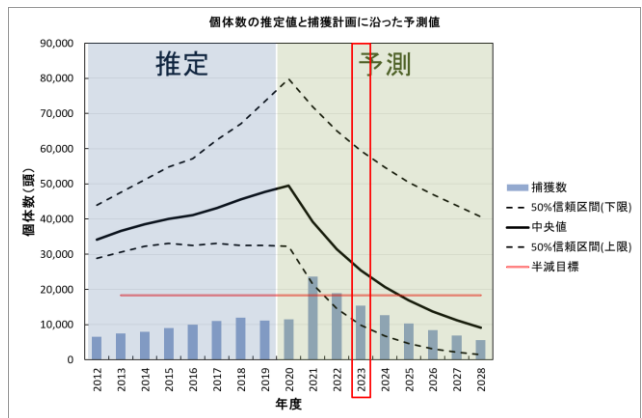
階層ベイズモデルのイメージ

- 捕獲数と密度モニタリングのデータを使用し、個体数動向を推定

- 推定結果を用いて今後の捕獲計画に沿って個体数動向を予測

現状の捕獲の2倍の強度をかけると継続すると半減目標を達成

県全域での捕獲目標が設定可能



36

36

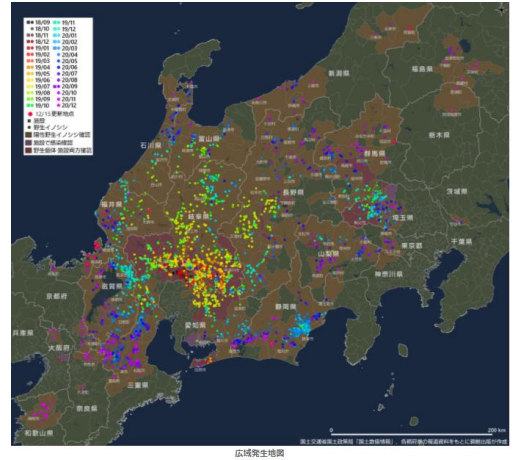
近年のイノシシ問題と必要な措置 その2

「農業被害」「人身被害」 + 「CSF」



- ・ 野外調査による感染拡大防止の措置が必要
- ・ CSFは畜産部局マターであることが多い
→内部での情報共有と連携が必要

CSF確認地点(各地の公表データを元に作成)



捕獲目標の活用：市町村への目標捕獲数の割当

- ・ 全県での捕獲目標の設定は対策の推進に有用
- ・ 一歩進んで、目標を分割し「どこで」「どれだけ」捕獲するかを設定すると、全県での捕獲目標の達成に向けて、各地での捕獲を推進できる

(兵庫県 第2期ニホンジカ管理計画 令和2年度事業実施計画)

- ・ 事例 | 兵庫県では捕獲数を市町村に割当

ア 令和2年度市町別最低捕獲目標

年間捕獲目標を 46,000 頭とし、目撃効率と森林面積をもとに市町毎に捕獲目標数を振り分け、地域の実情に応じた個体数管理を行う。

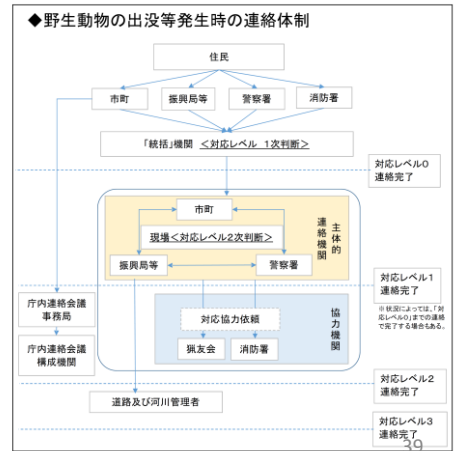
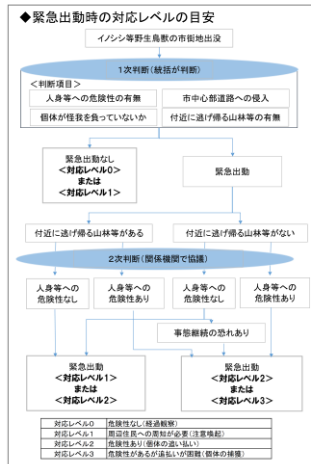
目標捕獲数 合計 46,000 頭

県民局 (センター)	市町	森林面積 ha	目撃効率 注1	目撃効率 × 森林面積	捕獲目標 (頭) 注2	(参考) 捕獲実績(H30) (頭)		
						有害	狩猟	合計
神戸	神戸市	22,072	0.04	883	57	22	1	23
	尼崎市	0	0.00	0	0	0	0	0
	西宮市	3,692	0.00	0	0	0	0	0
	芦屋市	726	0.00	0	0	0	0	0
	伊丹市	0	0.00	0	0	0	0	0
阪神	宝塚市	5,711	0.32	1,828	117	16	16	32
	川西市	0	0.00	0	0	0	0	0

出沒対応マニュアルの事例：長崎県

県：「野生動物が市街地等に出没したときの 緊急対応マニュアル」を作成

- 対応レベルの目安
- 県と市町等の行政機関、関係団体の役割分担と連絡体制等のベース作成



39

市町村の計画策定のポイント

- 都道府県の計画やマニュアルと整合性をもちながら、市町村として地域の被害対策軽減のために目標と実施内容を記載 + 実行体制を整備
- 鳥獣被害防止計画の作成とそれに基づく対策実施が第一
- イノシシ被害が深刻な地域ではイノシシに特化した計画が必要
 - 中長期、短期的なタイムスケールで目指すべき状態(目標)
 - 目標達成のために必要な調査と対策の内容を具体的に記載

40

40

市町村の計画策定：千葉県市原市

計画名 | 市原市イノシシ被害対策計画

「単なる経済損失の補てんとしての獣害対策から、地域振興のための対策事業へと視野をひろげ、長期的、総合的視点に立った科学的被害対策を行うため、本計画を策定する」

- 市内を8つのユニットに分け、地域の事情に応じた適切な対策を推進

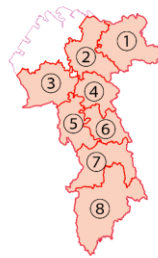


図1 対策ユニット区分

必要な重点対策	ユニット番号							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
分布初期対応	●		●			●		
防護柵設置促進	●	●	●	●				
個体管理	●	●		●				
対策リーダー優先配置	●	●		●	●			
捕獲体制整備	●		●		●	●	●	●
対策技術改善							●	●

市町村の計画策定：福島県富岡町

計画名 | 富岡町イノシシ緊急対策事業計画

「鳥獣被害の軽減及び帰還・一時帰宅時の安全確保を図るためには、…本計画は、イノシシを集中的に排除しながら、上記①～③の結果を踏まえ長期的な計画作成に結び付けてゆくことを目的とする。」

- 町内を4つにゾーニングし、各ゾーンでの対策等を記載



地域住民による被害対策の推進に向けて

- ・被害対策の担い手は最終的には地域住民
- ・市町村担当者に鳥獣の専門知識があることは少なく、時間的な余裕もない
- ・市町村――→地域住民

↑この間に専門知識がある人材が
入り込むことで地域の対策が進む

- ✓鳥獣専門指導員（島根県）
- ✓避難地域鳥獣対策支援員（福島県）

福島県は12市町村の支援のため、
6名の避難地域鳥獣対策支援員を設置している



43

43

参考となる資料

- ・特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン
（イノシシ編）

<https://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-2a/index.html>

- ・イノシシの保護及び管理に関するレポート
（平成29年度版）

https://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-report/h29report_inoshishi.pdf

44

44